

令和5年度学校評価報告書

学校名（廿日市小学校）

評価計画					自己評価					学校関係者評価 コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
①確かな学力の育成	◎児童一人一人が「分かった」「できた」と実感する授業づくりを行い、自分の考えを相手に分かるように表現する力を付ける【小中共通】	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的な学びを促す単元づくりを進める 基礎・基本の定着を図り、学習に困難を抱えた児童に対し、個に応じた手立てを行う【小中共通項目】 言葉の表現を豊かにするために読書活動の充実 研究授業を行う 	自分で「課題を見つけた」、「自ら考え、やりとげた。友達の考えを聞いて考えが深まった（廿小3つの自慢のうち、聞き上手）」と回答した児童の割合 〈児童アンケート〉	90	89	89	99	B	全体的には、ほぼ目標値に達している。しかし、質問2の高学年の平均は83%ほどだった。高学年になるにつれ、友達と比べることなどで理想の姿が高く、満足いく達成感が得られていないと感じる児童が増えたのではないかと考える。	自ら学び、考え、協働して課題を解決する授業づくり 課題の解決に向けて、「自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した児童の割合 〈6年生対象全国学力調査〉 【市共通項目】	<ul style="list-style-type: none"> 今年度同様、単元計画を提示し、学習に見通しがもてるようにしていく。 自己選択・自己決定の場を設定し、より主体的に学習できるようにしていく。 学習の振り返りから、児童が自己の学びを調整していけるようにする。
			自ら学び、考え、協働して課題を解決する授業づくり 課題の解決に向けて、「自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した児童の割合 〈6年生対象全国学力調査〉 【市共通項目】	85	83	92	108	A	全体的には、概ね県平均、全国平均を上回っていた。正答率が60%未満の児童は、16%だった。低学年の平均が9%なのに対し、高学年の平均は22%だった。		
			標準学力調査（算数）で60%未満の児童の割合	15	—	16	94	B	1年から3年までの55冊は達成している学級が多い。4年から6年の40冊は達成することが難しかった。授業中に図書室に行けず、休憩中も委員会などの仕事があり、借りに行く時間がないと考える。		
②豊かな心・健やかな体の育成	人の気持ちを考え、行動できる児童を育成する	「廿小3つの自慢」の向出口に向けて児童の主体的な活動を仕組む…「挨拶」「聞き上手」「身だしなみ」（聞き上手は①で取り組む）	3つの自慢のうち、挨拶と身だしなみが「できている」と回答した児童の割合 〈児童アンケート〉	挨拶 95 身 95	挨拶 92 身 92	挨拶 91 身 91	挨拶 96 身 96	B	・気持ちのよい挨拶ができる児童が増えているが、その一方で挨拶ができない児童もいる。 ・身だしなみに関してはアレルギーや接触過敏等の児童が増えて、一律の指導が難しくなっている。	電子書籍の購入予算や児童実態を考えて、電子書籍を取り入れるのもよい。 ・高学年の貸し出し状況を把握し達成可能な目標設定を考える。 ・本に興味をもつような取り組みを考える。（図書委員会）	
			挨拶についての話し合い 挨拶についてはたくさん児童が気持ちよくできるように取組を継続してほしい。	・挨拶に関して、3学期は、委員会だけでなく、学級でも挨拶運動に取り組む姿が見られる。自主的な活動を今後、増やすとともに、教職員自体も挨拶を見直す必要がある。 ・「服装に関するきまり」について、年度初めに、まずは教職員の共通認識を図るとともに、児童に丁寧に説明する。また、名札を付けることを徹底する。							

		自己肯定感、自己有用感を育てる 学級の取組を仕組む	「クラスのみんなや学校の役に立った」と回答した児童の割合 〈児童アンケート〉	90	82	80	89	B	学級の取組による差が大きいが、委員会活動における自主的な活動はだいぶ増えてきた。	自己有用感が高まる取組を継続して行ってほしい。	・学級における係活動や自主的な活動が推進されるよう、まずは教職員が意識することが重要。 ・委員会活動においては更なる充実と、肯定的評価を行っていく。
		時間いっぱい自分の持ち場を丁寧に掃除する取組を仕組む 【小中共通項目】	「児童が時間いっぱい丁寧に掃除している」と回答した児童・教職員の割合 〈児童アンケート・教師アンケート〉	児 95 教 95	児 92 教 100	児 91 教 97	児 96 教 102	B	手順がよくなるにつれ、気付き掃除を行う児童が増えた。休憩時間にも進んで掃除している低学年の姿も見られた。	自分で考えて掃除を行うことは大切である。自主的に取り組む児童の姿も大切にほしい。	・1学期は、「もくもく掃除」をし、手順のよくなる2学期以降は「気付き掃除」を行っていく。掃除がしやすく、意欲がもてるよう、掃除用具の補充や充実を図る。
③「地域とともにある学校」の創造	学校運営協議会を設立し、地域と学校が連携・協働して教育を進める体制を整える	・総合的な学習の時間を中心に、児童が地域への愛情を育むことのできる場をつくる ・学校運営協議会の効果的な運営がなされるよう、熟議を行って意識統一を図る	「地域のよさに気付き、それを表現できた」と回答した児童の割合 〈児童アンケート〉	90	86	84	94	B	多様な教科にわたっての甘笑応援団の方々の授業支援や、見守り隊の活動等、地域の方々に支えられていることへの感謝の気持ちを児童は持っている。しかし、地域のよさを表現するということは十分でなかったと考える。	表現できたと児童が思っていないということが課題である。授業の工夫をしていく必要がある。	・地域のよさを子どもたちが考えた方法で表現できる場の設定を。 ・学校運営協議会において、来年度の熟識し人数を増やし、地域の方と教職員がしっかり話せるようにする。 ・学校をよりよくするために学校運営協議会の充実を図る。
④保護者・地域の信頼を高める	働き方改革を推進し、子どもと向き合う時間を確保する	業務の見直しを行う	時間外勤務時間が月平均 45 時間を超えていない教職員の割合 〈在校等時電簿記録〉	90	67	69	78	C	取組は継続しているものの、昨年度と同様の数値で、劇的な改善は図れていない。業務改善は教職員が切望しているところであり、鋭意努力はしているが、取組には限界にあると考えられる。	取組をして働き方改革を進めているものの現状の改善がなかなか見られないことについては、どう改善していくかなか難しい。	・引き続き、平日は基本的に19時退校とし、週に1回定時退校日、それとは別途月に一回、各学年ごとのスーパー退校日を設定し、各々で業務の進捗管理を行っていく。 ・引き続き、業務改善について、校内での行事等を見直し、学校運営協議会での意見を反映していく。 ・生徒指導事案の未然防止のための積極的な取組を継続していく。

※ 計画書・中間報告書に上書きしてもよい。

※ 参考資料があれば添付すること。